

これからがん治療、臓器移植や
心臓血管手術をうける方への

口腔ケア読本

〈改訂版〉

— 周術期等口腔機能管理のご案内 —

お口の中に気になることがおありになる方は

▶手術を行う担当の先生にご相談ください。

【かかりつけ歯科がある場合】

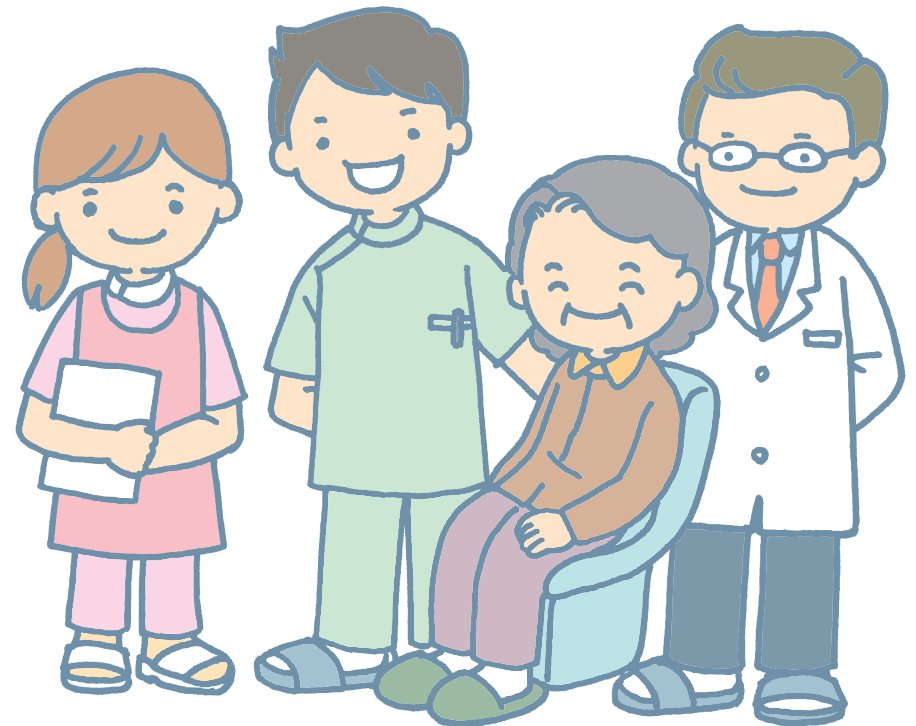
手術を行う担当の先生とかかりつけの歯科医師にご相談ください。

横浜市歯科医師会

TEL.0120-814-594

横浜市歯科医師会 周術期連携 検索

<https://www.yokohama-oralcare.com/>



令和4年2月発行

※この冊子は横浜市補助事業により作成されたものです。



地域連携拠点病院

と

横浜市歯科医師会 が連携

患者さんへ質の高い治療を提供し、**QOL** (Quality of Life:生活の質)を向上させるために、様々な連携を行っています。

これから、**がんの外科手術、抗がん剤治療、放射線治療、臓器移植手術、心臓血管手術**を受けられる患者さんは、とても不安な気持ちになっていることでしょう。

**これから自分の体にどのような変化がおきるのか？
合併症や副作用は、どのようなものなのか？**

など、ご本人にしか分からない、沢山の悩みや不安があると思います。

横浜市歯科医師会は、横浜市立大学、横浜市と3者協定を締結し、これらの治療を受ける方々の口腔内の健康を維持できるような活動を積極的に行っています。

がんの外科手術、抗がん剤治療、放射線治療、臓器移植手術、心臓血管手術などで、口腔内の環境も変わります。

また、おこりうる合併症などが、口腔の環境に影響されることもあります。

それだけ、全身の治療と口腔内の健康は、密接に繋がっているということです。

口腔ケアによる口腔の管理は、**がんだけでなく、糖尿病や心臓疾患、誤嚥性肺炎などの全身疾患にも、よい影響があることが知られています。**

📖 この「**口腔ケア読本**」は、

そうした患者さんの疑問を少しでも解消し、不安軽減できるようにまとめました。是非、お読みいただき、お近くの歯医者さんにご相談いただくことをお勧めしています。



お口の働きとその特徴

お口は私たちの体の入り口、玄関です。細菌やウイルスなど様々な外来物の侵入を防ぐだけでなく、以下のような多くの役割を担っています。また全身の防御機構を担う役割として、口腔の細菌や唾液が一役買っています。

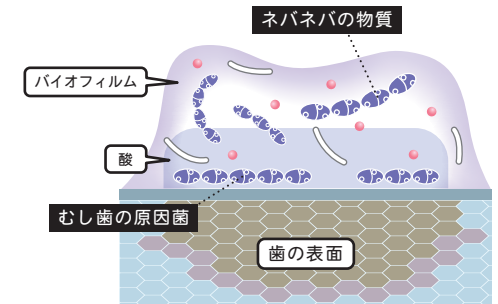


口腔内の細菌

人間の体の中には、約700種類の細菌などの微生物が存在し、特に口腔内には、300種類以上の細菌が存在することがわかっています。舌、頬粘膜、歯肉などの粘膜や歯に多種類の群れを形成しています。これを口腔細菌叢と言います。食習慣や生活習慣などによって個人差が見られ、最近では疾患との関連性も指摘されつつあります。細菌から代謝される多糖体に細菌が付着しプラーク(歯垢)となり、さらに放置されると厚いバイオフィルムへ成長し、歯磨きでの除去も困難になります。

唾液の役割

細菌や食事などによる酸などで口腔内が酸性となり、むし歯の原因になりますが、唾液はその酸を中和する役割があります。また、細菌の増殖を防ぐ効果や、咀嚼・飲み込みの補助、粘膜の保護、味覚促進など、様々な重要な役割を担っています。





治療の前に歯科医院に行こう!!

手術や治療の前には、
全身の管理だけでなく口腔内の管理も大切です。

Q 治療を受ける前に、歯科を受診することがどうして大切なのか？

治療を始めるときに口腔内の衛生状態が悪い人は、治療上の副作用がひどくなりやすいことがわかっています。

治療前・手術前に歯科治療や口腔内の専門的なクリーニングをうけて口腔内の衛生状態をよくすることで、手術や治療による副作用(肺炎・口内炎など)を減らすことができます。口腔内を清潔に保つ『口腔ケア』は、患者さんの早期回復に非常に有効であり、社会復帰に向け大きな手助けとなります。『口腔ケア』は、保険診療(介護保険を除く)の対象外でしたが、近年、下記の治療のとき保険診療にて行うことが可能になりました。

- 1 がんの手術 ▶ P. 7
- 2 心臓血管手術 ▶ P. 8
- 3 脳卒中の手術 ▶ P. 9
- 4 人工股関節置換手術などの整形外科手術 ▶ P. 10
- 5 臓器移植手術 ▶ P. 11
- 6 抗がん剤治療 ▶ P. 13
- 7 放射線治療 ▶ P. 14
- 8 造血幹細胞移植 ▶ P. 15
- 9 緩和ケア ▶ P. 17

周術期等口腔機能管理の啓発活動

横浜市歯科医師会と横浜市では市民の皆様にも周術期等口腔機能管理を広く知っていただくための様々な取り組みを進めております。
2020年には以下のポスターや動画を作成しました。こちらもぜひご覧ください。

病気の治療の時も、お口の状態を整えましょう

周術期等口腔機能管理のすすめ

周術期等口腔機能管理とは？

全身麻酔の手術や、抗がん剤治療、頭頸部への放射線治療、緩和ケアの前後(周術期等)に、治療による合併症を防ぐためにお口のケア(口腔機能管理)を行うことです。

詳しい説明を動画で見る



手術中の歯の破損

術後の傷の感染

術後の肺炎

重症感染症

抗がん剤治療、頭頸部への放射線治療の副作用重症化

病気の治療時に、歯周病やむし歯が関係して様々な**合併症**がおきるといわれています。

合併症を防ぐために、治療時にお口の状態を整えておくことが大切です。

治療中の合併症が少なく早期に退院・回復でき、治療後の身体機能や生活の質が高くなるといわれています。

しっかり治す、早く元気になるために



歯科医師・歯科衛生士は皆さんをサポートします!!

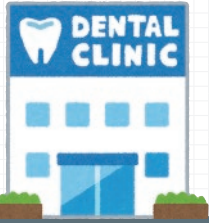
周術期等口腔機能管理に関する横浜市歯科医師会の取組は右のQRコードから



横浜市歯科医師会 横浜市歯科医師会 周術期連携 検索
TEL.0120-814-594 <https://www.yokohama-oralcare.com/>

治療前にも、病気になる前からもお近くの歯科医院で治療を受けましょう。

周術期等口腔機能管理と医科歯科連携



全身麻酔手術や化学療法(抗がん剤)、放射線治療の前後、緩和ケアの際に口腔のケアを行って、**入院期間の延長・肺炎や創部の感染リスクの増大・歯の脱落等**の治療中の思わぬトラブルを**予防することを目標とします。**

連携先の歯科医院

地域の歯科医院と一緒に病院の中の歯科外来が関わることもあります

- 病気の治療に問題となることがないか、お口の中をチェックします。
- むし歯や歯周病の検査をし、問題があれば治療します。
- 口腔内の専門的なクリーニングを行います。

- 患者さんのお口の中の状態や病気の治療内容に合わせて衛生管理方法(セルフケア)を指導します。

- 病院から依頼があれば、入院先医療機関への訪問診療で口腔機能管理を実施することが可能です。

- 放射線治療後や抗がん剤治療後は、長引く副作用(唾液減少など)がおりやすく、長期の療養で体力が低下している場合は細菌感染をおこしやすいため、定期的な歯科受診とメンテナンスが望ましいです。

※周術期等口腔機能管理を行っている**歯科医院の検索**は右のQRコードから

横浜市歯科医師会「横浜市周術期連携歯科医院」のサイトへ



横浜市歯科医師会 周術期連携 <https://www.yokohama-oralcare.com/>

効果的な口腔機能管理のためには

お口の中の状態を良好なものにするために、**入院や治療開始の予定日よりも、少なくとも2週間以上前の歯科受診**をお勧めします。



患者さんご自身

主治医による診療情報提供書を持って、歯科を受診します。

歯科医の評価にもとづき、周術期等口腔機能管理としての歯科治療や口腔衛生指導を受けます。

入院や治療の開始までに歯科医による診療情報提供を主治医に提出します。(※歯科医から主治医に直接郵送される場合もあります)

術後の経過や処置の際の注意点等がある場合、診療情報提供書を持って、歯科を受診します。

治療を受ける病院

病気についての**検査、診断、治療計画**を行います

治療方針に基づいて

主治医が歯科受診をお勧めします。受診する歯科医院を指定、紹介される場合もあります。

入院

手術等

退院

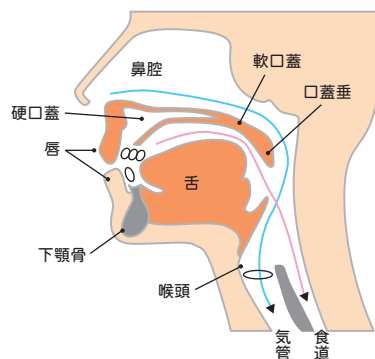
外来通院



病気の治療や手術の後も、むし歯・歯周病の治療や予防としてかかりつけ歯科での口腔管理を継続しましょう！

1 これから「がんの手術」をうける方へ

全身麻酔を伴うがんの手術では、人工呼吸のための管を口腔から入れます(挿管)。このとき、口腔内の細菌が少ない方が、手術後に肺炎や創(傷口)感染などの合併症を減らせることがわかっています。



手術後の感染

口腔内の細菌が原因で手術後感染が引き起こされる

❗ 手術後の創(傷口)感染

頭頸部、消化器、呼吸器などの手術の傷口に口腔からの細菌がつく

❗ 誤嚥性肺炎

手術後、口腔内の細菌の誤嚥により肺炎が引き起こされる

手術前の口腔機能管理で予防を!

専門的な口腔ケアを行うことにより口腔内の細菌を減らし、感染のリスクを下げます。

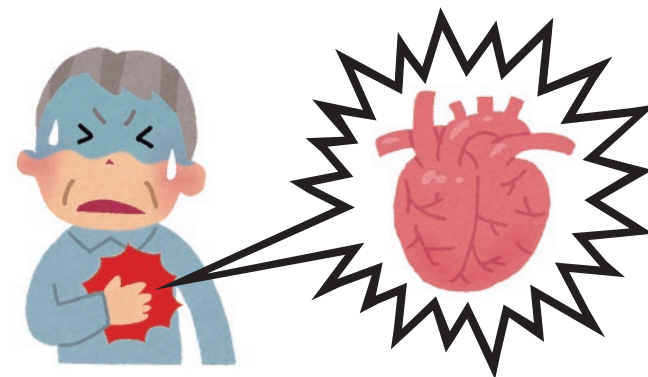


🦷 歯科では・・・

- ①手術に問題となることがないか、口腔内をチェックします。
- ②むし歯や歯周病の検査をし、問題があれば治療します。
- ③口腔内の専門的なクリーニングを行います。
- ④口腔内の衛生管理方法(セルフケア)を、患者さんの状態に合わせて指導します。

2 これから「心臓血管手術」をうける方へ

口腔内の細菌が血管を伝って、感染性心内膜炎や血管内膜炎などを引き起こすことがあります。



これから人工血管、人工弁の手術、先天性心疾患などの手術をうけられる方は、むし歯や歯周病をしっかりと治しておく必要があります。口腔内の感染症であるむし歯や歯周病に關与する細菌は、術後に血管や人工血管、人工弁に付着し、重篤な血管内膜炎や人工弁感染性心内膜炎などをおこすことがありますので、注意が必要です。

生涯を通じた口腔ケアで予防を!

専門的な口腔ケアや予防を行うことにより、口腔内の細菌を減らし、思いもよらない感染症の発症リスクを下げます。



🦷 歯科では・・・

- ①手術に問題となることがないか、口腔内をチェックします。
- ②むし歯や歯周病の検査をし、問題があれば治療します。
- ③口腔内の専門的なクリーニングを行います。
- ④口腔内の衛生管理方法(セルフケア)を、患者さんの状態に合わせて指導します。
- ⑤生涯にわたって感染症のリスクを減らすため、定期的な歯科受診が必要です。

3 これから「脳卒中の手術」を受ける方へ

脳卒中(脳出血・脳梗塞など)はかつては日本における死因の第1位で今でも4位に該当する疾患です。

突然発症するケースが多く、手術も緊急で行われることもあります。治療前後において手足の麻痺(左右どちらかに出ることが多い:片麻痺)や食べ物が飲み込みにくくなる(誤嚥)症状が出る場合があります。

麻痺



治療前後における口腔ケアの必要性や注意点

- ❗ 片麻痺が生じた場合、麻痺側の口腔内に食片や食べかすが残りやすくなります。この残った食片などは、むし歯や歯周病の原因になるだけでなく、誤嚥の危険性も生じます。また、うがいの際に口から水が溢れやすいので注意が必要です。
- ❗ 片方の手に麻痺がある場合は、ブラッシングや義歯の清掃が困難となるため、練習が必要となります。
- ❗ 脳梗塞などでは抗血栓薬(血液を固まりにくくするお薬)を内服するため、外科的処置では注意が必要です。

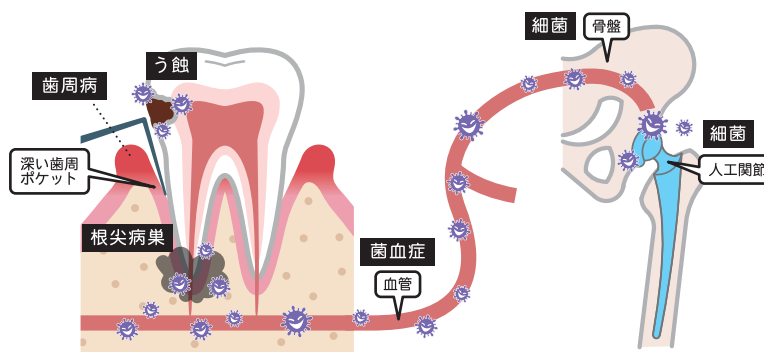


🦷 歯科では・・・

- ①手術に問題となることがないか、口腔内をチェックします。
- ②むし歯や歯周病の検査をし、問題があれば治療します。
- ③口腔内の専門的なクリーニングを行います。
- ④口腔内の衛生管理方法(セルフケア)を、患者さんの状態に合わせて指導します。
- ⑤嚥下機能を評価し、状態に合わせた嚥下訓練を指導します。
- ⑥片麻痺の場合、ブラッシングや義歯の清掃にコツがいりますので、その方法を指導します。
- ⑦術前に抜歯が必要な場合、抗血栓薬の内服を確認し、十分な対応を行いながら抜歯をします。入院が必要となる場合もあります。

4 これから「人工股関節置換手術」などの整形外科手術を受ける方へ

股関節などに行う人工関節置換手術では、変形した関節を切除し、金属やプラスチックでできた人工関節に置き換えます。術後人工関節への感染は0.5-2.4%で起こり、術後まもなく発症する場合と何年もたってから発症する場合があります。口腔内の細菌が原因である比率は6-13%で、歯周炎や歯根の尖端の病巣などの細菌が血液にのって、人工関節部に到達し炎症をおこします。重篤な場合は再置換手術になります。



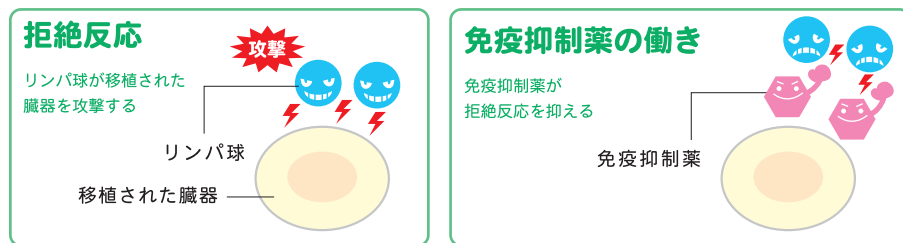
また、整形外科手術を受ける高齢の方は骨粗しょう症で、骨吸収を抑える薬の投与を受けていることが多く、合わない義歯やお口の汚れ、歯周病や根尖病巣などが引き金となり、あごの骨の露出を伴う難治性の骨の炎症をおこすことがあります。術前から術後、一生継続したお口の徹底的な管理が必須です。

🦷 歯科では・・・

- ①術後感染の原因となることがないか、口腔内をチェックします。状況によりX線検査を行います。
- ②なるべく手術2週間前までに感染巣を徹底的に除去します。(根の治療、抜歯、歯石除去など)
- ③患者さんの状態に合わせた衛生管理方法(セルフケア)を指導します。
- ④術後も一生を通じて定期的な口腔管理を行います。

5 これから「臓器移植手術」をうける方へ

人には外から入ってきた異物を非自己(自分のものではないもの)と認識して、排除する免疫という機能があります。移植された臓器も非自己であるため、これを排除しようと免疫反応が起こります。これを拒絶反応といいます。



拒絶反応をおこす免疫は、もともと生体にとって必要な働きですが、拒絶反応が強くとおきると移植された臓器の働きが失われ、生命に影響を及ぼすことがあります。そのため、拒絶反応をうまくコントロールする必要があり、免疫抑制剤が用いられます。その結果、免疫の働きを抑えようとするあまり、細菌などに対する抵抗力もなくなり、思いもよらない感染症をおこしてしまうことがあります。

生涯を通じた口腔管理で予防を!

専門的な口腔ケアや予防を行うことにより、口腔内の細菌を減らし、思いもよらない感染症の発症リスクを下げます。



歯科では・・・

- ①手術に問題となることがないか、口腔内をチェックします。
- ②むし歯や歯周病の検査をし、問題があれば治療します。
- ③口腔内の専門的なクリーニングを行います。
- ④口腔内の衛生管理方法(セルフケア)を、患者さんの状態に合わせて指導します。
- ⑤免疫抑制剤は、長い間服用しなくてはなりませんので、定期的な歯科受診が必要です。

コラム



手術が終わった後の 歯科治療はどうするの？

かかりつけ歯科では、周術期等口腔機能管理計画書にもとづき、周術期等口腔機能管理を行います。

入院前の周術期等口腔機能管理は歯科診療所で実施し、入院後の術前、術後の周術期等口腔機能管理は病院内の歯科もしくは病院要請により、往診でかかりつけ歯科診療所に対応を行うこともあります。

退院後も術前と同様に、医科側の主治医より診療情報提供書をかかりつけ歯科診療所あてに提供いただくことで(医科歯科連携)より質の高い口腔機能管理が可能となります。

手術後退院した患者さんに対し、周術期等口腔機能管理報告書を作成し、周術期等口腔機能管理を行っていきます。

周術期等口腔機能管理の 効果

専門的な口腔管理により、各疾患患者の在院日数・術後在院日数・術後絶食日数減少等が報告されています。

麻酔科ドクターより

きれいな口で手術に臨んでください。術前の口腔管理は**あなたの命を守ります**。全身麻酔では、口から気管の中に柔らかい樹脂製の管を入れて人工呼吸器につなぎ、機械で呼吸を管理します。このとき、2つの問題が生じます。

問題①

グラグラした歯があると、管や器具が当たって抜けてしまうかもしれません。

問題②

麻酔中は飲み込む動作がなくなるため、のどの奥に唾液がたまりやすくなります。お口が汚れていると、汚れた唾液が気管の中まで垂れ込んで、麻酔の管理後に肺炎をおこす可能性があります。



かかりつけ歯科で周術期等口腔機能管理を行ってもらってから手術に臨みましょう!

6 これから「抗がん剤治療」を受ける方へ

抗がん剤治療に用いる薬剤は、がん細胞を死滅させる、細胞増殖を抑制するなどの効果がありますが、同時に正常な細胞、組織にもダメージを与えてしまいます。口腔内の細胞がダメージを受けると、頬や唇の内側の粘膜が炎症をおこし、痛みが出ます。痛みが強いと、一時的に食事や会話が不自由になります。

いろいろな口腔内トラブル

- ❗ 口腔粘膜炎
- ❗ 歯肉の出血
- ❗ 歯の知覚過敏
- ❗ 味覚障害
- ❗ 口腔乾燥
- ❗ 歯や歯肉への感染
- ❗ ウイルス感染
- ❗ カビの菌の増殖

抗がん剤治療前の口腔管理で予防を！

抗がん剤のなかには「免疫力」を弱めてしまうものもあり、普段はなんともない口腔内の菌が感染症を引きおこし、抗がん剤治療が継続できなくなることもあります。歯科で**専門的な**ケアを行い、口腔内の衛生状態を改善することが副作用の重症化を防ぐことに役立ちます。

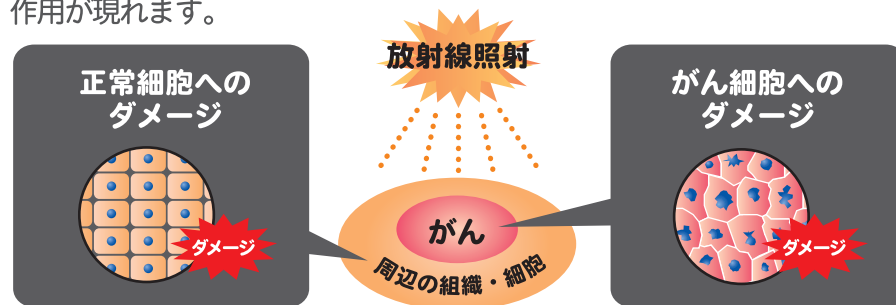


🦷 歯科では・・・

- ①治療に問題となることがないか、口腔内をチェックします。
- ②むし歯や歯周病の検査をし、問題があれば治療します。
- ③口腔内の専門的なクリーニングを行います。
- ④口腔内の衛生管理方法(セルフケア)を、患者さんの状態に合わせて指導します。

7 これから「放射線治療」を受ける方へ

放射線治療では、がん細胞に放射線をあてることでがん細胞を死滅、あるいは細胞増殖を抑制します。できるだけがん細胞だけに放射線があたるようにしていますが、周りの正常な細胞にも放射線があたってしまうのを完全に避けることはできません。口腔の周りの細胞はもともと放射線の影響を受けやすいタイプの細胞のため、放射線治療の効果とともに口腔内の正常な細胞もダメージを受けます。そのダメージの結果、様々な副作用が現れます。



有害反応の発症は、被ばく線量に最も依存します。
そのため、口腔管理においては口腔内の照射部位と照射量を確認することが大切です。

□やのど、首への放射線治療により生じやすい副作用

- ❗ 口内炎
- ❗ 口腔乾燥
- ❗ むし歯になりやすくなる
- ❗ 骨髄炎(あごの骨の炎症)

専門的な口腔管理を行うことが副作用の重症化を防ぐことに役立ちます。



🦷 歯科では・・・

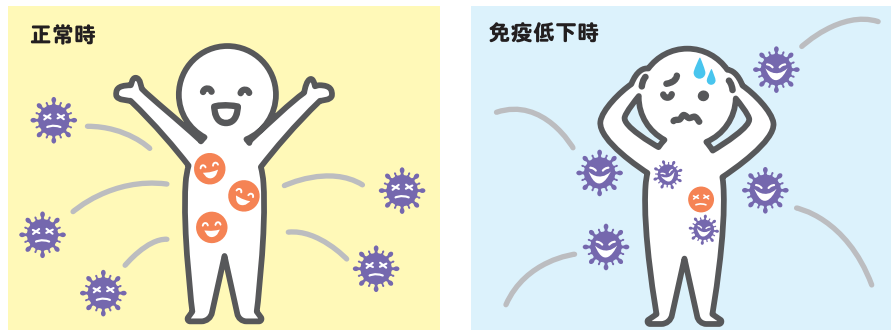
- ①治療に問題となることがないか、口腔内をチェックします。
- ②むし歯や歯周病の検査をし、問題があれば治療します。
- ③口腔内の専門的なクリーニングを行います。
- ④口腔内の衛生管理方法(セルフケア)を、患者さんの状態に合わせて指導します。
- ⑤放射線治療終了後も長引く副作用があるため(唾液減少など)、定期的な歯科受診が必要です。

8 これから「造血幹細胞移植」をうける方へ

造血幹細胞移植は血液の悪性腫瘍に行われます。移植の前にはご自身が持つ、もとの造血幹細胞や血液中の腫瘍をなくすための強い抗がん剤治療を行います。正常な白血球は主に体内で細菌感染に対する免疫や損傷治癒として働きますが、造血幹細胞移植では一時的にこれらの働きが強く抑制され、平常時には問題にならないような常在微生物による感染症や、粘膜の損傷をおこしてしまいます。そのため、お口に関する副作用として口内炎や口腔乾燥、歯の周囲からの感染症などに注意が必要です。

また、移植後は新しい免疫が、もとの体を異物として攻撃してしまうこと(移植片対宿主病:GVHD)がないよう免疫抑制剤が投与されるため、長期的に口腔内を清潔に保つ必要があります。

正常時と免疫低下時の病原菌への反応



歯科では・・・

- ①免疫低下時に問題となる重度のむし歯や歯周病がないか、口腔内をチェックします。
- ②血液内科医師との連携の上、感染巣を除去します。
(重度のむし歯、歯周病の歯の抜歯、専門的なクリーニングなど)
- ③口腔内の衛生管理方法(セルフケア)を、患者さんの状態に合わせて指導します。
- ④移植から長期経過後も、免疫抑制剤服用中の感染リスクや、お口の粘膜へのGVHD発症に備えて定期的な歯科受診が必要です。

コラム



オーラルフレイルをご存知ですか？

フレイルとは

加齢に伴って心身が衰えた状態のことで、何も対策を講じないと要介護状態となり、頑張って対策を講じれば健康な状態に戻る可能性があります。

お口の中にも「フレイル」はおこる事ご存知ですか？

コロナ禍により色々な制限から **食べる機能** **話す機能** がいつの間にか**低下**し『オーラルフレイル』を招いてしまいます。コロナ禍の今だからこそ、「**かかりつけ歯科医院**」にて『お口の管理』ならびにご自身でのチェックをお勧めします！

オーラルフレイルを簡単にチェック

質問項目	はい	いいえ
半年前に比べて、硬いものが食べにくくなった	2	
お茶や汁物でむせることがある	2	
義歯を使用している*	2	
口の渇きが気になる	1	
半年前と比べて、外出が少なくなった	1	
さきいか・たくあんくらいの堅さの食べ物をかむことができる		1
1日2回以上、歯を磨く		1
1年に1回以上、歯科医院を受診している		1

*歯を失ってしまった場合は、義歯などを適切に使って、硬いものをしっかり食べることができるよう、治療を受けることが大切です。

合計の点数が

オーラルフレイルの危険性		
0~2点	3点	4点以上
危険性は低い	危険性あり	危険性が高い

東京大学高齢社会総合研究機構 田中友規、飯島勝矢：作表

合計点数が3点以上の方は、かかりつけの歯科医院にご相談ください！

出典：神奈川県ホームページ

＼ はこちらから ＼



自宅でできるオーラルフレイル改善プログラム

かながわ・お口の健口体操「**グー・パー・ぐるぐる・ごっくん・ペー**」

は、こちらからお試してください！

オーラルフレイルについて詳しくは神奈川県ホームページ

オーラルフレイルチェック、かながわ・お口の健口体操「グー・パー・ぐるぐる・ごっくん・ペー」について
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cz6/cnt/s001/oralfrail.html>

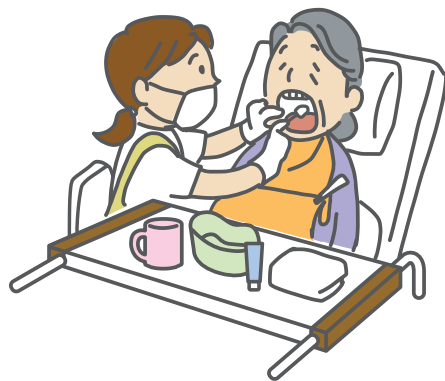
在宅で療養されているがん患者さんには、病状の変化に伴い、様々な口腔の問題が現れ、その頻度も高いです。

また、全身状態の悪化に、口腔のセルフケアが困難な状況が加わり、様々な口腔トラブルが生じやすく、重症化しやすくなります。

このような背景を持つ口腔のトラブルは、口腔内だけの問題にとどまらず、がん患者さんの生活の質(QOL)を明らかに悪くしています。

緩和ケアにおける周術期等口腔機能管理は、患者さんの口腔の不快な症状を取り除き、「食べる」ことや「話す」ことを支えていくために非常に重要です。

このように歯科が緩和ケアに関わり、口腔管理を通じて口腔を良好な状態に維持しお口のはたらきを保つことは、在宅療養の質を高め、生きる力を支えることにつながります。



🦷 歯科では・・・

- ①口腔内の専門的なクリーニングを行います。
- ②口腔内の衛生管理方法(セルフケア)を、患者さんの状態に合わせて指導します。

周術期等口腔機能管理・在宅歯科医療^{などの}

ご相談は

各区在宅歯科医療連携室へ

横浜市歯科医師会ならびに各区の歯科医師会では、通院が難しい患者さんと地域の歯科訪問診療をつなぐお手伝いをしています。ご不明なことやご不安なことがありましたらお気軽にご相談ください。

相談・お問い合わせ

相談対応
歯科訪問診療を行う
歯科医院の紹介

在宅歯科医療連携室

① 青葉区在宅歯科医療地域連携室

TEL.050-3488-6764

② 港北区在宅歯科相談室

TEL&FAX.045-543-5510

③ つるみ区歯科医療連携相談室

TEL.070-4039-2626

FAX.0120-985-966

④ 旭区在宅歯科医療連携室

TEL.080-7799-7480

FAX.045-363-2881

⑤ 保土ヶ谷区在宅歯科相談室

TEL.045-309-8114

FAX.045-330-6090

⑥ 西区在宅歯科医療相談室

TEL.080-3696-2676

FAX.045-534-6884

⑦ 泉区在宅歯科医療連携室

TEL.045-410-6250

FAX.045-410-6258

⑧ 磯子区在宅歯科医療連携室

TEL.080-8720-5526

FAX.045-370-8080

⑨ 金沢区在宅医療相談室

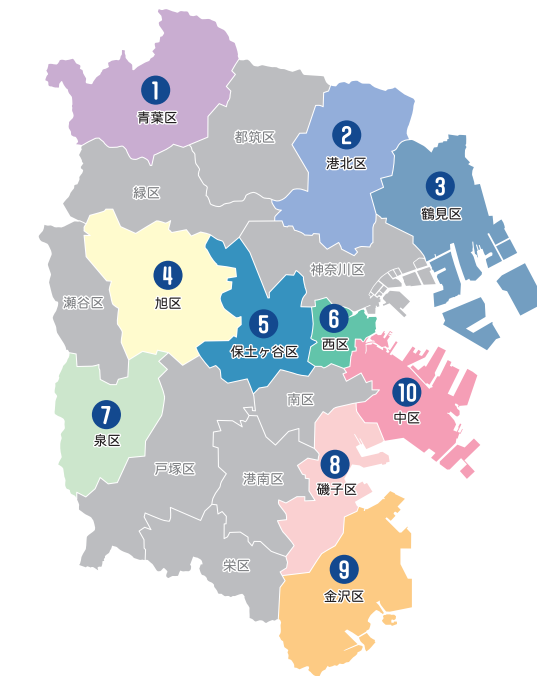
TEL.045-782-5031

FAX.045-785-3401

⑩ 横浜市地域連携室 (横浜市歯科医師会)

TEL.0120-814-594

FAX.0120-458-557



連携室未設置区は

⑩横浜市地域連携室(横浜市歯科医師会)へご相談ください。